

X. 世界における動物性食品の輸出入状況

各国の動物用医薬品に関する検出状況等の検討において特に注目すべき品目や原産国を把握するため、魚介類を中心に動物由来食品についての輸出入状況を調査した。

1. わが国の動物由来食品の輸入状況 (JETRO の貿易統計データベースから)

JETRO (日本貿易振興機構) の貿易統計データベース (2006 年度) から、わが国の魚介類及び肉類の輸入状況を抜粋した。

JETRO 貿易統計データベース : <http://www.jetro.go.jp/indexj.html>

1) 魚介類

2006 年にわが国が魚介類を輸入した相手国として、価格ベースで最も大きい国は、中国 (シェア約 14%)、次いで米国 (同 11%)、ロシア (同 9%)、チリ (同 8%)、ベトナム (6%)、台湾 (6%)、インドネシア (5%) であった。それぞれの国の主な魚介類を表 1 に示した (表 X-1)。

魚介類の品目からみた場合、輸入量の多いものは、その他の魚 (サケ、マグロ、カツオ、イワシなどを除く) とエビで、前者は米国、中国、アイスランドのシェアが大きく、後者はベトナム、インドネシア、インドのシェアが大きかった。この他、ウナギは、台湾、中国、香港、カニはロシア、中国、オーストラリア、イカはタイ、中国、ベトナム、タコはモーリタニア、モロッコ、中国などである。

表 X-1 わが国が輸入する魚介類の主な原産国及び品目(2006)

相手国	輸入量の多い順	全体に占めるシェア(価格ベース、%)	年間の輸入量 1 万トン以上の魚介類	年間の輸入量 1 万トン未満の主なもの
全体		100		
中国	1	14	その他の魚、マグロ、エビ、イカ、ウナギ、ウニ・貝柱等	カニ、タコ
米国	2	11	その他の魚、魚卵、ベニザケ、イワシ	カニ、イカ
ロシア	3	9	カニ、その他の魚、ベニザケ、魚卵、ウニ・貝柱等	エビ、サケ、ハリバット
チリ	4	8	サケ、マス	タラ等、ウニ・貝柱等
ベトナム	5	6	エビ	イカ、タコ、ウニ・貝柱等
台湾	6	6	マグロ	ウナギ、カツオ、その他の魚
インドネシア	7	5	エビ	マグロ、カツオ
タイ	8	5	エビ、ウニ・貝柱等	イカ、カツオ、マグロ
韓国	9	5	マグロ、ウニ・貝柱等	その他の魚、かき
カナダ	10	4		その他の魚、エビ、カニ、ハリバット、サケ、魚卵
ノルウェー	11	4	サバ、サケ	その他の魚、マス

インド	12	3	エビ	イカ
オーストラリア	13	3		マグロ、エビ
フィリピン	14	1	マグロ、カツオ	エビ
アイスランド	15	1	その他の魚	ハリバット、魚卵
スペイン	16	1		マグロ、タコ
マルタ	17	1		
モロッコ	18	1		タコ、イカ
モーリタニア	19	1	タコ	
ニュージーランド	20	1		その他の魚、イカ

JETRO 貿易統計データベースより

2) 肉類

2006年にわが国が肉類を輸入した相手国として、価格ベースで最も大きい国は、オーストラリア（シェア：約31%、主な品目：牛肉、羊肉）、次いで米国（同19%、豚肉、鶏肉）、デンマーク（同12%、豚肉）、カナダ（同12%、豚肉）、ブラジル（10%、鶏肉）、チリ（4%、豚肉）、ニュージーランド（4%、牛肉）であった（表X-2）。

表は2006年の結果であるが、2007年もほぼ同様の傾向である。

表 X-2 わが国が輸入する肉類の主な原産国及び品目(2006)

相手国	輸入量の多い順	全体に占めるシェア(価格ベース、%)	年間の輸入量1万トン以上の肉類
全体		100	
オーストラリア	1	31	牛肉、羊肉
米国	2	19	豚肉、鶏肉
デンマーク	3	12	豚肉
カナダ	4	12	豚肉
ブラジル	5	10	鶏肉
チリ	6	4	豚肉
ニュージーランド	7	4	牛肉
メキシコ	8	4	豚肉
フランス	9	1	
ハンガリー	10	1	

JETRO 貿易統計データベースより

2. 世界の養殖及び捕獲魚介類の生産量/漁獲高（米国 NMFS のデータから）

米国の米国海洋大気庁（NOAA：National Oceanic and Atmospheric Administration）の米国海洋水産局（NMFS：National Marine Fisheries Service）は、米国及び国際的な水産資源の保全及び管理を担当している。NMFSの科学技術部門（Office of Science & Technology）のwebサイトに、米国及び世界の水産統計など各種データが掲載されている。

NOAA：<http://www.noaa.gov/>

NMFS：<http://www.nmfs.noaa.gov/>

NMFS, Office of Science & Technology：<http://www.st.nmfs.noaa.gov/>

米国の水産業 2007

Fisheries of the United States 2007

<http://www.st.nmfs.noaa.gov/st1/fus/fus07/index.html>

1) 世界の水産業 (World Fisheries)

http://www.st.nmfs.noaa.gov/st1/fus/fus07/04_world2007.pdf

世界の漁獲量（養殖及び商業漁業）について、上記のサイトに年度別、品目別、国別のデータが収載されている。世界の漁業生産量に関して商業漁業によるものは 1997～2005 年でさほど大きな差はないのに対し、養殖水産 (Aquaculture) の占める割合は年々高くなっている。また、各国の漁業量 (2006 年) は、養殖、商業漁業共に、中国が圧倒的に多く、次いでインド、ベトナム、タイ、インドネシアなどであった。

世界の魚介類輸出入量 (2005 年及び 2006 年) については、輸入は多い順に日本、米国、中国、韓国、輸出は中国、ノルウェー、タイ、米国、ベトナムであった。

2) 外国との貿易 (Foreign Trade)

http://www.st.nmfs.noaa.gov/st1/fus/fus07/06_trade2007.pdf

米国が 2006 年及び 2007 年に輸入もしくは輸出した水産物の品目及び量が収載されている。2007 年に米国が輸入した生鮮及び冷凍の食用水産物のうち、重量ベースで最も多いのはエビ、次いでマグロであった。2007 年に米国が輸入した水産物 (食用及び非食用) の原産国は、地域としてはアジア (57%) が最も多く、次いで北米 (18%)、南米 (14%)、国別では、中国 (22%) が最も多く、次いでタイ (14%)、カナダ (13%)、チリ (6%)、インドネシア (5%)、エクアドル (4%)、ベトナム (4%) であった。

米国のエビの輸入量は、タイが最も多く、次いでエクアドル、インドネシア、中国が多い。

3. 米国の魚介類に関するマーケット情報 (米国 FAS のデータから)

米国農務省 (USDA) の海外農業局 (FAS : Foreign Agricultural Service) は、米国産農林水産物の海外市場の発展や開拓のための業務を担当しており、web サイトには農林水産物の貿易に関する統計などの情報が収載されている。

FAS : <http://www.fas.usda.gov/>

魚介類及びその製品についての情報は、以下のサイトに収載されている。

Fish and Seafood Products : <http://www.fas.usda.gov/ffpd/fish.asp>

1) 魚介類に関する米国の状況

The US and World Situation: Fish & Seafood (May 2008)

http://www.fas.usda.gov/ffpd/Newsroom/2008_Fish%20Exports.pdf

2007年に米国が国外に輸出した魚介類製品で、相手国として最もシェアが大きかったのはEU(26%)、次いで日本(19%)、カナダ(18%)、中国(13%)、韓国(9%)であり、この5ヶ国で全体の87%になった。品目としては、サケ(19%)、タラ(Pollock、14%)、ロブスター(9%)、すりみ(7%)、タラ(Cod、7%)、ホタテ(3%)、カニ(3%)であった。

2) 魚介類に関する米国及び世界の状況

The US and World Situation: Fish and Seafood (September 2007)

<http://www.fas.usda.gov/ffpd/Newsroom/Fish%20Exports.pdf>

世界全体で魚介類の輸入量が多い国(2006年)としては、トップがEU、次いで日本と米国であり、この3ヶ国で大半を占める。また魚介類の輸出量が多い国は、トップが中国、次いでノルウェー、タイ、米国、カナダ、EU、チリ、インドネシア、アイスランド、インドである。

3) エビに関する米国及び世界の状況

The US and World Situation: Shrimp (September 2007)

<http://www.fas.usda.gov/ffpd/Newsroom/Shrimp.pdf>

米国でのエビの消費量は年々増加しており、魚介類全体に対するエビのシェアは1996年の17%から2005年は25%に増えた。

世界全体におけるエビの生産量も増加しており、1996年は約350万トンであったが、2005年は600万トンを超えた。エビの輸入量が多い国(2006年)は、トップが米国、次いでEU、日本であり、この3ヶ国で大半を占める。エビの輸出量が多い国(2006年)は、トップがタイ、次いで中国、インドネシア、インド、エクアドルであった。

4) サケ/マスに関する米国及び世界の状況

The US and World Situation: Salmon (September 2007)

<http://www.fas.usda.gov/ffpd/Newsroom/Salmon.pdf>

世界全体で、サケ/マスの輸入量が多い国(2006年)は、トップがEU、次いで日本、米国、中国であった。サケ/マスの輸出量が多い国(2006年)は、ノルウェーが圧倒的に多く、次いでチリ、カナダ、米国であった。

4. 米国が中国から輸入した魚介類量 (FDA のデータから)

Trade Imports

<http://www.fda.gov/oc/opacom/hottopics/aquaculture/tradeimports.html>

FDA の“Trade Imports”に収載されている中国産魚介類の輸入量データは以下のとお

りである (表 X-3)。輸入ウナギは中国産の割合が高く、また中国産ウナギの 100%が養殖である。中国産エビは輸入量全体の 10%弱である。

表 X-3 米国の中国産魚介類輸入量

年	原産国	水産物	輸入量(kg)	輸入量(米ドル)	全体の輸入量に占める中国産の割合	中国産のうち養殖品が占める割合(推定)
2006	中国	ウナギ	1,391,413	\$12,284,032	88%	100%
2006	全体	ウナギ	1,709,364	\$13,916,304		
2007	中国	ウナギ	209,903	\$2,007,071	81%	100%
2007	全体	ウナギ	303,094	\$2,480,487		
2006	中国	ナマズ	7,606,301	\$29,489,441	26%	100%
2006	全体	ナマズ	34,002,157	\$111,418,067		
2007	中国	ナマズ	6,585,607	\$24,556,516	49%	100%
2007	全体	ナマズ	14,136,236	\$49,802,330		
2006	中国	エビ	68,150,423	\$330,917,988	8%	41%
2006	全体	エビ	590,299,218	\$4,115,249,669		
2007	中国	エビ	21,141,035	\$100,607,462	9%	41%
2007	全体	エビ	162,006,701	\$1,105,013,548		
2006	中国	全体	523,168,073	1,931,928,020	15%	
	全体	全体	2,340,190,636	13,153,419,383		

* : 2006 年は全データ、2007 年は 1~4 月のデータ。

2007 年の米国におけるエビの輸入量は、タイ産が最も多く、次いでエクアドル、インドネシア、中国、メキシコ、ベトナムである。

(http://www.st.nmfs.noaa.gov/st1/market_news/doc74.txt)

要約

1) わが国の動物由来食品の輸入状況

魚介類

2006年にわが国が魚介類を輸入した相手国として、価格ベースで最も大きい国は、中国（シェア約14%）、次いで米国（11%）、ロシア（9%）、チリ（8%）、ベトナム（6%）、台湾（6%）、インドネシア（5%）であった。魚介類の品目からみた場合、輸入量の多いものは、その他の魚（サケ、マグロ、カツオ、イワシなどを除く）とエビで、前者は米国、中国、アイスランドのシェアが大きく、後者はベトナム、インドネシア、インドのシェアが大きかった。この他、ウナギは、台湾、中国、香港、カニはロシア、中国、オーストラリア、イカはタイ、中国、ベトナム、タコはモーリタニア、モロッコ、中国などである。

肉類

2006年にわが国が肉類を輸入した相手国として、価格ベースで最も大きい国は、オーストラリア（シェア：約31%、主な品目：牛肉、羊肉）、次いで米国（19%、豚肉、鶏肉）、デンマーク（12%、豚肉）、カナダ（12%、豚肉）、ブラジル（10%、鶏肉）、チリ（4%、豚肉）、ニュージーランド（4%、牛肉）であった。

2) 世界の養殖及び捕獲魚介類の生産量/漁獲高（米国 NMFS のデータから）

世界の漁業生産量に関して商業漁業によるものは1997～2005年でさほど大きな差はないのに対し、養殖水産（Aquaculture）の占める割合は年々高くなっている。2006年に養殖水産の漁業量が世界で最も多かったのは中国で約3400万トン、2番目はインドで約300万トンであった。

3) 米国の魚介類に関するマーケット情報（米国 FAS のデータから）

世界全体で魚介類の輸入量が多い国（2006年）としては、トップがEU、次いで日本と米国であり、この3ヶ国で大半を占める。また魚介類の輸出量が多い国は、トップが中国、次いでノルウェー、タイ、米国、カナダ、EU、チリ、インドネシア、アイスランド、インドである。

米国でのエビの消費量は年々増加しており、魚介類全体に対するエビのシェアは1996年の17%から2005年は25%に増えた。世界全体におけるエビの生産量も増加しており、1996年は約350万トンであったが、2005年は600万トンを超えた。エビの輸入量が多い国（2006年）は、トップが米国、次いでEU、日本であり、この3ヶ国で大半を占める。エビの輸出量が多い国（2006年）は、トップがタイ、次いで中国、インドネシア、インド、エクアドルであった。

世界全体で、サケ/マスの輸入量が多い国（2006年）は、トップがEU、次いで日本、米

国、中国であった。サケ/マスの輸出量が多い国(2006年)は、ノルウェーが圧倒的に多く、次いでチリ、カナダ、米国であった。

4) 米国が中国から輸入した魚介類量 (FDA のデータから)

2007年の米国におけるエビの輸入量は、タイ産が最も多く、次いでエクアドル、インドネシア、中国、メキシコ、ベトナムである。米国が輸入しているウナギの80%以上は中国産であり、その100%が養殖である(2006年、2007年)。中国産エビは輸入量全体の10%弱であり、そのうち約40%が養殖である(2006年、2007年)。
